

レジメン登録フォーマット

申請年月日	2021/4/27	使用開始日	
登録診療科	血液内科	申請医師	松永一美
レジメン名	ボライビー+R-ベンダムスチン【末梢性ニューロパチー発現時】(1コース目)		
疾患名	非ホジキンリンパ腫	適応の備考	末梢性ニューロパチーGrade2/3発現時に使用
適応分類	進行・再発		
1コース日数	21 日間	総コース数	1 * コース 催吐性リスク day1:最小度、day2,3:中等度
抗がん剤投与量・投与日 リツキシマブ375mg/m ² day1、ボライビー1.4mg/kg day2、ベンダムスチン90mg/m ² day2-3			
治療スケジュール・投与日程(投与日は●)			

投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
1	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分	●																					
	点滴静注																									
プライミング用																										
2	主ルート	生食100mL	1 本 / body	30 分	●																					
	点滴静注	水溶性プレドニソ注50mg	2 A / body		●																					
3	主ルート	生食500mL	0.675 本 / m ²		●																					
	点滴静注	リツキシマブ注	375 mg / m ²	下記	●																					
10倍に希釈する																										
4	主ルート	5%糖液100mL	0.5 本 / body		●																					
	点滴静注	ボライビー点滴静注用 注射用水100mL	1.4 mg / kg 1 本 / body	90 分	●																					
IVIにつき140mgは7.2mL、30mgは1.8mLの注射用水で溶解 ◆希釈液量体重規定あり◆27kg~111kgの間は輸液量の調整不要 投与速度は1回目90分、2回目以降30分可。																										
5	主ルート	グラニセトロン注ハック1mg/50mL	1 本 / body	30 分	●	●																				
	点滴静注																									
6	主ルート	生食50mL	1 本 / body		●	●																				
	点滴静注	ベンダムスチン注	90 mg / m ²	10 分	●	●																				
閉鎖式システム使用 【減量基準】 前コースの投与量 90mg/m ² → 70mg/m ² で再開 70mg/m ² → 50mg/m ² で再開 50mg/m ² → 中止を検討 なお、減量後は再増量しないこと。																										
7	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分	●	●	●																			
	点滴静注																									
	経口投与	ボララミン錠2mg ジクロフェナクNa錠25mg	1-3 錠 / body 1 錠 / body		●	●	●																			
	day1: リツキシマブ投与の30分前 day2: ボライビー投与の30分前																									

【投与上の注意】

- ・中等度催吐性用のデキササートは不要。
- ベンダムスチン: 希釈は生食のみ。
- リツキシマブ: 前投薬としてボララミン(2)1~3錠、ジクロフェナクNa(25)1錠を内服する。
- リツキシマブ: 初回はECGモニターをつける。
- リツキシマブ: 投与速度 初回は50mL/hで開始し、30分毎に50mL/hずつ上げ、最大400mL/hまで。
- リツキシマブ: 投与速度 2回目以降は、医師の指示により、投与方法①、②から選択
- 投与方法①: 初回投与時に発現した副作用が軽微な場合、100mL/hで開始、30分毎に100mL/hずつ上げ、最大400mL/hまで。
- 投与方法②: 臨床的に重篤な心疾患がなく、初回投与時に発現した副作用が軽微、かつ投与前の末梢血リンパ球数が5,000/μL未満の場合、最初の30分で投与量の20%を投与、残り60分で投与量の80%を投与(90分間で投与)。
- ボライビー: 前投薬としてボララミン(2)1~3錠、ジクロフェナクNa(25)1錠を内服する。
- ボライビー: 0.2または0.22μmのインラインフィルターを使用して投与する。
- ボライビー: 投与速度は1回目90分、2回目以降は30分まで短縮可。
- ボライビー: Grade1又は2のinfusion reaction発現時はGrade1又はベースラインに回復するまで休薬又は投与速度を下げる。症状回復時には元の投与速度で再開可。
- ボライビー: Grade3のinfusion reaction発現時はGrade1又はベースラインに回復するまで休薬する。症状回復時には休薬前の投与速度の1/2の投与速度で再開可。
- 再開後infusion reactionが認められない場合には、投与速度を30分ごとに50mg/hずつ上げることができる。
- ボライビー: 希釈後の濃度が0.72mg/mLから2.7mg/mLになるように希釈する。体重27kg未満の場合は30mLに、111kg以上の場合100mLに希釈する。
- ボライビー: 調製後は激しい振動を加えないこと(抗体タンパクが凝集するおそれがあるため)。
- ボライビー: 投与後は30分以上経過観察すること。
- ボライビー: 調製後の安定性は、生食で4時間、5%糖液で8時間。

(*初回投与でリツキシマブによるinfusion reaction発現があり、投与時間延長が見込まれる場合には2コース目以降でも使用可)